

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2024年(令和6年)3月25日号 No.1953

目次

■プーチン大統領5期目再選で正当性確保もテロで激震	1
■『ロシアNIS調査月報』2024年4月号のご紹介	8
■トピックス	9
ロシア大統領選 プーチン氏5選／9	
EU、対ロ制裁を拡大／9	
SBI、ウズベキスタンでの投資・金融事業に進出へ／9	
モスクワ郊外でテロ事件 死者多数／9	

プーチン大統領5期目再選で正当性確保もテロで激震

(一社)ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所 研究員
中馬 瑞貴

はじめに

2024年3月15～17日にかけてロシアで大統領選挙が行われた。3月21日に発表された最終結果によると、現職のプーチン大統領が87.28%を獲得し、前回(2018年)の得票率:76.69%を大きく上回っての再選となった。得票率に加えて、投票率:77.44%も過去最高を記録した。そもそもプーチンの再選はほぼ確実視される中で、投票率や得票率がどれだけ伸びるかという点に関心が向けられていたが、政権が目標としていた「投票率7割、得票率8割」を達成し、プーチン大統領としては、ウクライナでの「特別軍事作戦」を含め、自身のこれまでの政策および今後、長ければ12年に及ぶ政権運営に正当性を確保することができたと言えるだろう。

しかし、そうした安堵もつかの間、3月22日の夜、首都モスクワのコンサート会場で銃乱射事件が発生。連邦保安局(FSB)は実行犯4人を含む11人を逮捕・拘束したと伝えている。ロシア当局の発表によると死者137名以上、負傷者180名以上と(3月24日時点)、2004年9月に北オセチア・バスタンで死者300名以上となった学校占拠事件以来、過去20年間で最悪の被害を出すテロ事件となった。過激派組織「イスラム国(IS)」が犯行声明を発表しているものの、プーチン大統領はウクライナの関与も疑う声明を発表している。一方で、事件発生から19時間以上、プーチン大統領がメディアに姿を現さなかったことから、テロ対策の遅れが一部で指摘されている。